

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年12月26日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、斎藤慎太郎		
<p>検証テーマ： オープニング、コロナの感染者、コロナ変異種、コロナ禍と年末の帰省          宮腰議員が懇談会で飲酒し転倒、吉川元農水大臣の疑惑、自宅待機の検察事務官が無断外出          【特集】 コロナの影響、コロナの速報</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープニング</li> <li>・ コロナの感染者</li> <li>・ コロナ変異種</li> <li>・ コロナ禍と年末の帰省</li> <li>・ 宮腰議員が懇談会で飲酒し転倒</li> <li>・ 札幌市の交通事故で保育園が巻き込まれる</li> <li>・ 吉川元農水大臣の容疑</li> <li>・ ナッシュビル中心部路上でキャンピングカーが爆発</li> <li>・ 姫路城にジャンボ門松</li> <li>・ 阿蘇神社ですす払い</li> <li>・ 越前松島水族館でペンギンたちが初詣の練習</li> <li>・ 東京お台場でのひき逃げ事故の容疑者を逮捕</li> <li>・ 車を盗んだ無職男性を逮捕</li> <li>・ 自宅待機の検察事務官が無断外出</li> <li>・ 【特集】 コロナの影響</li> <li>・ コロナの速報</li> </ul>		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オープニング：結論→特に問題なし              番組の冒頭で金平キャスターの「今年最後の放送です。数ある嘘の中でももっとも卑怯な嘘は他人に罪をなすりつけるためにつく嘘だと私は思います、コロナ禍で苦しむ世界の中で嘘をつかないというルールがいかに大切なことか、私たちは思い知っています、今日は総力特集でコロナに苦しむ人々の姿をお伝えします。」とのコメントしていた。このシーンに当てられた時間は24秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・ コロナの感染者：結論→特に問題なし              膳場キャスターの「ではニュースです、今日も新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。」とのコメント、日下部キャスターの「東京都は今日新たに1日の感染者で過去最多となる949人の感染を発表しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。  <b>"ナレ「東京都が今日新たに発表した感染者は949人で一昨日の888人を上回り過去最多を更新、初めて900人を超えました。この内重症化リスクの高い65歳以上の高齢者は113人で現在入院している感染者のうち、重症</b> </li> </ul>		

者は昨日と変わらず、緊急事態宣言の解除後最多となっています。」

街の声 A「もう 1000 人行きますね、この数字見て(帰省を)やめる人とかもいそうだなって思いますね。」

街の声 B「どうしたら感染しないのかわからないんですけれど。」

ナレ「感染の拡大が続く中、東京銀座のデパートでは新型コロナ対策として年明けの風物詩が早くも登場しました。」

亀井将幸(松屋銀座本店販売促進部マネージャー)「通常であれば年明けの 1 月 2 日、3 日のみの販売期間ではございますが、年内ですね 12 月の 26 日から販売をスタートするというようなところでお客様の分散というところを私どものほうで図って販売をしております。」

ナレ「松屋銀座のデパートでは正月恒例の福袋についておよそ半分を今日から前倒しして販売しています。事前にネットで予約できる福袋もあり担当者は密にならない状態で安心して福袋を買ってほしいと話しています。コロナ禍で迎える年末年始、昨日はクリスマスでしたが人出は前の週と比べ、銀座で 7.4%減少した他、原宿や新宿歌舞伎町、渋谷のセンター街など都内の繁華街の多くで減少しています。」 "

このトピックについて当てられた時間は 121 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・コロナ変異種：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「速報です、感染力の高い新型コロナの変異種の感染者が検疫を除く国内で初めて確認されたことがわかりました。」とのコメントを受けて VTR が取り上げられるとともに、ナレーションによって「関係者によりますと、東京都内に住んでいてコロナ感染が明らかになった 30 代の男性二人について検体を国立感染症研究所で遺伝子解析した所、イギリスで広がる変異した新型コロナウイルスと判明したということです、この変異種の感染者が国内で確認されたのは空港の検疫を除くと初めてです。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 35 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・コロナ禍と年末の帰省：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「感染拡大に歯止めがかからない中、年末年始をどう過ごすのか、帰省の動きにも大きな影響が出ています。」とのコメントを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"引地深仁(報告)「連休初日の東京駅です、今年は人が少なくかなりまばらな印象です。」

ナレ「例年であれば乗車率が 100%を超え、人であふれかえる新幹線のホームですが、今年は閑散としています。JR 各社によりますと東海道新幹線の年末年始の指定席の予約は前の年より 75%減り過去最低で、今日の自由席の乗車率は最大 60%、北陸新幹線は最大 40%、東北上越新幹線は最大 30%でした。帰省する人も年末年始の過ごし方に悩んでいるようです。」 "

"帰省する人 A「ずっと帰ってなかったので、1 年我慢していて、家族以外には合わない予定です」

記者「年末年始はご家族とどのように過ごしますか

帰省する人 B「もうあのたぶんどこも出ないと思います。寝るところも部屋別々に寝ようとはしていますけどね。」

ナレ「また、空の便は国内線の予約が前の年のおよそ 4 割にとどまっていて、国際線のロビーは人影もまばらでした。」

報告「今朝の JR 岡山駅でも例年のような帰省客の混雑は見られませんでした。東京発ののぞみ号が到着しても降りてくる乗客はまばらでした。」

東京から岡山に帰省「ちゃんと PCR 検査を受けてきたのでまあいいかなと。なんか『自分が広げるのは嫌だな』

というのがあります。やっぱり人混みには行かないように気をつけようかなと思います。」

仕事で京都から「まあ今回はちょっとやめて観光もしないですぐ帰ろうと思っているんですけども。」

ナレ「一方、富山空港では観光客から帰省客の姿も見えました、感染防止のため、コロナ禍の正月は挨拶回りだけで、実家で過ごさないと残念がる人もいます。」

神奈川からの帰省客「親戚の家には止まらず、あくまでもホテルで滞在して皆さんにご迷惑をかけないように」

神奈川からの帰省客「会いたい人に会えないのは残念だけど、このご時世なので、しょうがないかな。」

このトピックについて当てられた時間は 136 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・宮腰議員が懇談会で飲酒し転倒：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「新型コロナウイルスの感染拡大で大人数の会食の自粛が求められる中、昨夜、元沖縄北方担当大臣で自民党の宮腰光寛衆議院議員が 30 人を超える懇親会に参加したうえ、酒を飲んで倒れ、救急搬送されていたことがわかりました。」とのコメントを受けて VTR が取り上げられるとともにナレーションによって「関係者によりますと自民党の宮腰光寛議員は昨夜、富山市内のホテルで行われた懇談会に参加、富山県の漁業関係者など 30 人以上が集まっていたということです、また、宮腰議員は懇談会の場で酒を飲んで点灯し、救急搬送されていたことがわかりました。宮腰議員は病院で手当を受けましたが怪我の程度は軽いということです、新型コロナウイルスの感染リスクを抑えるため政府は 5 人以上の会食を控えるよう呼びかけている最中の行動に宮腰議員は反省しているとコメントしています。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 69 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・吉川元農水大臣の疑惑：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「吉川貴盛元農水大臣が卵の生産会社の元代表から現金を受け取ったとされる事件で吉川氏が家畜の飼育基準について業界団体から要望書の提出を受けたおよそ 1 週間後に現金 200 万円を受け取っていたと見られることがわかりました。」とのコメントを受けて、VTR が取り上げられるとともに、ナレーションによって「吉川貴盛元農水大臣は鶏卵生産会社アキタフーズの元代表から併せて現金 500 万円を受け取った疑いが持たれていて東京地検特捜部は昨日収賄などの容疑で強制捜査に乗り出しました。吉川氏は大臣在任中の一昨年 11 月、大臣室で元代表ら業界団体側から家畜の飼育方法の国際基準案に反対する要望書の提出を受けましたが。関係者への取材でそのおよそ 1 週間後に都内のホテルで現金およそ 200 万円を受け取ったと見られることがわかりました。吉川氏は任意の事情聴取に現金の受け取りを認めたものと見られ、特捜部は大臣の職務に関する賄賂に当たるかどうか捜査を進めている模様です。」とのことが伝えられていた。

このトピックについて当てられた時間は 72 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・自宅待機の検察事務官が無断外出：

膳場キャスターによって「新型コロナに感染した東京地検の男性事務官が自宅待機の期間中に高速バスで東京から福岡へ移動していたことがわかりました。」とのコメントを受けて VTR が取り扱っているとともにナレーションによって「東京地検によりますと、20 代の男性事務官は毎月 17 日に新型コロナへの感染が判明し、保健所から 27 日まで自宅待機するよう指導を受けていました。しかし、その期間中に無断で都内の自宅から高速バスを使い福岡市に移動していたということです。目的はプライベートなこととして公表していません、東京地検は保健所やバス会社に事実関係を報告した上で、極めて不適切な行為であり深くお詫び申し上げます、とコメントしています。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 51 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】 コロナの影響：結論→やや問題あり

膳場キャスターの「特集です、コロナ禍で迎える年越しを前に、仕事や家を失った人たちへの影響が深刻化しています、追い詰められた人々の今を取材しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

"ナレ「一昨日、安倍前総理の会見が行われるということで会場に向かったが、」

金平茂紀(報告)「ええ、ここに入れる記者の人数とカメラの数が制限されておりまして、日頃から安倍前総理は国民に対して丁寧な説明をするということですが、残念ながら私たちもこの会場を出ざるを得ないですね。」

ナレ「桜を見る会の前夜祭を巡って安倍氏側が会費の差額を補填していた疑惑で一昨日公設第一秘書が略式起訴された。安倍前総理の国会答弁では虚偽の内容が 118 回あったことがわかっている。桜を見る会の追求を続けてきた辻元議員はこの会見をどう見るのか。」 "

安倍晋三(前首相)「私が知らない中で行われていたこととは言え、道義的責任を痛感しています、深く深く反省するとともに国民の皆様にご心からお詫び申し上げます。」

"辻元清美(立憲民主党副代表)「よくいうよ、本当に、謝って済む話じゃないね。これは、」

金平茂紀「結局私の知らない中に、とか要するにやっぱり自分は知らないんだと。」

辻元清美「会社の社長が社員に騙されていたと、社員から聞いたことを言っていたんだから許してちょうだいね、と、そんなことが通用するわけないわけです、辞任ですよこの社長は。」 "

ナレ「安倍前総理はこれまでコロナ対策などアベノマスク配布など瞑想を続けてきた、引き継いだ菅総理のコロナ対策も GoTo 事業をめぐる混乱続いている。」

"膳場貴子(報告)「今、尾身会長が姿を表しました、これから年内最後となります新型コロナ対策分科会が行われます。」

ナレ「政府に対しこれまで様々な助言を行ってきた専門家等による分科会、全国の新規感染者が 3 日連続で 2000 人を超えた先月は柄、尾身会長が訴えたのは素が内閣の一丁目一番地として進めてきた GoTo トラベルの運用見直しだ。」

尾身茂(コロナ対策分科会長)「ステージ 3 相当と判断せざるを得ない状況に早晩至る可能紫衣が高い、国として GoTo トラベル事業の運用のあり方について早急に検討していただきたいとお見おます。」

ナレ「政府への提言として感染拡大地域での事業の停止などを求めた。提言には人々の移動が感染拡大に影響する、と書かれていた。しかし、政府は『GoTo トラベル事業が感染拡大が主要な要因であるとのエビデンスは現在の所、存在しない』という文言だけを度々強調した。」 "

"菅義偉(総理)「GoTo トラベル事業が感染拡大の主要な要因であるとのエビデンスは現在のところ存在しないとされています。」

加藤勝信(官房長官)「エビデンスは現在の所、存在しないという指摘も頂いているところでありますので、」

ナレ「菅総理はさらにこんな発言まで、」

菅義偉(ニコニコ生放送)「いつの間にか GoTo が悪いことになってきてしまったんですけども、異動では感染はしないという提言は頂いていたんです。」

ナレ「提言の作成に関わった分科会のメンバー釜薙敏氏は都合の良い文章だけが政治的に利用されたと忸怩たる思いにじませた。」 "

"釜薙敏(日本医師会常任理事)「人の移動はですね、感染のか k づ愛に強く関わってくることはもう自明でありま

して GoTo トラベルだけを取り出して、その感染拡大にどれだけ影響したかを評価するための資料がない、と、その時点でないというのが一番正確だったと思います。」

膳場貴子「GoTo トラベルが感染拡大の主要な要因とのエビデンスはないと、これを強調して政府が答弁を繰り返したことについてはどんな思いでご覧になっていたでしょうか。」

釜薙敏「まああの、GoTo トラベルを止めたくないというお考えからすれば、この文章はそれなりに利用価値があったと、もう少し遂行されてですね、誤解を招かないような表現にできればなお良かったと思っています。」  
"ナレ「**今年 3 日、厚労省の会議で、公衆衛生の専門家が人の移動と感染リスクには関係があることを示すデータを発表した。今年 1 月中旬から 8 月末までの期間で国内での移動歴がわかっている感染者について調べた結果、移動歴がある人のほうがない人と比べて他人に感染させる頻度がたかかった、しかし GoTo トラベルを全国一斉に停止すると発表した後も政府はエビデンスはないといい続けた。**」

西村康稔(経済再生相)「分科会の提言のエビデンスはないという、その通りだと思います、しかしながらもうある一定レベル、感染レベルがある一定のレベルになればですね、人と人との接触を減らさないと、感染を抑えられない状況です。」

(CM)

"ナレ「年の瀬が迫った今週水曜、東京豊島区の住宅街に長蛇の列ができた、労働組合による食料の配布と生活相談に集まった人だ。みな、袋いっぱいに入れや缶詰などの食料を詰めていく。目立ったのは高齢者、そして若い女性の姿だ。」

大学 3 年生女性(20 代)「生活費はまあちょっと大変ではありますね、奨学金とか色々借りながら学費を払いつつ生活費を養っているのでまあギリギリって言えばギリギリ。」

ナレ「この大学三年生の女子は大量の米や飲料水など 10 キロ近くを一人で抱え、歩いて自宅に向かった。今、コロナ禍で多くの女性達が窮地に陥っているが。」

大学 4 年生(23 歳)「『自分でなんとかがなさい』とか『我慢できないのは我慢が足りない』とかまあ自己責任論みたいな風潮とかも、なんかすごい感じるので我慢しなきゃいけないと思っちゃうので、そういう空気感みたいなのが、大きいかな、というふうに思います。」

"ナレ「さらに一人で子育てをする多くのシングルマザーも支援を求めている。」

シングルマザー「ありがとうございます、ホント助かります。」

スタッフ「いい年迎えようね。」

シングルマザー「これでお金がなくても生きていける。」

5 歳の息子を一人で養育するシングルマザー「お金が本当にないというのが一番ですかね。クリスマスのお祝いをしてあげないといけないし、っていうのがあって本当に助かりました。行政の支援というよりは一般の方の NPO 法人さんだったりとか食糧支援とかのほうが私たちのためになっているのかな、と行政は全く助けてくれない感じがするので。」

ナレ「同時に行われた生活相談でシングルマザーの女性は悲痛な状況を訴えた。」

小学 6 年生の息子を一人で養育するシングルマザー「今がきつくて、どうやり過ごすというか、本当にいっぱいいっぱい何度も死のうと思った。本当にきつい、生きているのが苦痛。」

ナレ「この女性はコロナ禍で自分にあつた仕事が見つからず、自殺を考えるまで追い込まれていた。」

小学 6 年生の息子を一人で養育するシングルマザー「本当に日雇いとかで警備の仕事とかやったこともあったんですけども途中で倒れちゃって、なんかどうしていいのかわからなくて本当に死んだほうが楽だなと何度も思ってた。」



社会福祉士「それはお子さん残して死ねないですよ、今は休みましょう。そのためにどうやったら休めるか。今年は正直に言って生活保護を一時的に利用したほうがいいと思います。」

ナレ「この日。食料の配布を受けたのは 254 人、このうち 7 割が女性だった、用意された 500 キロの米はすべて配られた。」

"井澤智(食料配布を実施、東京地評)「緊急の経済対策も本当にこういった必要とされている所に手が届くようなそういった支援策になっていないというのが現状だと思います。これだけの人が集まるということは、そういったこと、表れですよ。実態ですよ、本当にこの実態を政治はよく見ているのかというのはすごく感じる所です。」

ナレ「都内に住む 30 代の女性、二人の息子を持つシングルマザーだ。11 年前、夫を事故でなくした女性は子どもたちを養うため、昼は工務店の事務仕事、夜は居酒屋といずれも非正規で働いていて、だが、半年ほど前、昼間働いていた工務店の現場でコロナの感染者が出たことから仕事がストップ、掛け持ちで働いていた居酒屋も客足が途絶え、その後退職を余儀なくされた。」

コロナで仕事を失った 30 代女性「工務店さんからのお仕事もどんどんなくなって、夜の居酒屋さんはもう働きにはいけない状況になってしまったので、5 月にはもう収入が私はほぼなくなってしまう状態だったので。」

ナレ「二人の息子を連れて今は姉の家に居候中、僅かな貯蓄を切り崩しながら今はギリギリの生活を続けているが、蓄えも既に底をつきかけている。」

コロナで仕事を失った 30 代女性「私が働けなくなったら子どもたちを守る人ももういないわけだし、ご飯を食べさせられなくなったら、この子達はどうなるのかなという気持ちで本当、いっぱいなので相当追い詰められています。」

"ナレ「コロナで収入が減少した人に国が最大 20 万円まで貸し付ける総合支援資金、女性は 3 ヶ月前から毎月支給している、だが、その期限は来年 2 月まで、少しでも収入を得ようと、先月から家事代行の仕事を始めたが、研修中のため、月の収入は合わずか 2 万円程度、掛け持ちで働ける仕事を探しているが、今はまだ見つからない、」

コロナで仕事を失った 30 代女性「昨日も 4 時間位ずっと見ていたんですけども子供がいるとやっぱり条件とかもあるので、時間帯とか働ける日数とかなかなかなくて、」

ナレ「子供たちに不自由させまいと昼夜を問わず働いてきたが、仕事を失い、母親としての自分を攻め続けている。」

コロナで仕事を失った 30 代女性「今まで何してきたんだろう、必死に働くだけで子供にも今までたくさん寂しい思いをさせて、過ごさせているので、またこれ以上、苦勞を賭けるのかって思ってしまうといたたまれないですよ、まだこの状況が続くのかなって思うとどんどん精神的にも厳しくなってきます。」

"ナレ「都内の NPO ポッセ、」

スタッフ「今、生活大丈夫ですか回っていますか」

相談者「まあなんとか、っていう感じですね。」

ナレ「仕事や生活の相談に電話で応じている。今年はコロナが原因となった相談だけで去年のおよそ 1.5 倍のぼった、中でも女性の相談は 6 割以上、その殆どが非正規雇用だ。」

渡辺寛人 (NPO「POSSE」事務局長)「サービス業への影響が大きいのかなとは思いますが、で働いている人たちの仕事がやっぱり戻れない、そもそもコロナがあるなしに対して会社に対してすごい立場が弱い、なにか言ったらペナルティがあるんじゃないか、クビにされるんじゃないかっていう環境があって、持ってるはず

の権利を主張できない不利益な状況に追い込まれている、っていうのがあるのかな。まあ非常にいい加減な手続で労働者をやめさせる、コロナに便乗していくような形で労働条件を切り下げたり、クビにしていくっていう事例もかなりやっぱり相談としては多いんですね。」

(CM)

"小池百合子(東京都知事)「家族でステイホームぜひともご協力をいただきたいと存じます。」

ナレ「コロナの感染拡大に伴い、ステイホームが呼びかけられる中、家庭内で起きる虐待やDV、ドメスティック・バイオレンスがますます深刻化している、内閣府の調べによると緊急事態宣言が出された後の、5月6月、DVの相談件数は前年の同じ月に比べおよそ1.6倍にまで増えている。DVの被害にあった女性たちが駆け込む場所がある。母子生活支援施設だ。関東地方にある母子生活支援施設、ここには現在35世帯、94人の母子が暮らしている、今年、二人の子供を連れて避難してきた40代女性、結婚当初から度々夫に暴力を振るわれてきたがコロナで家にいる時間が増えたため暴力はさらにエスカレートしていったという。」

避難してきた40代女性「夫の家にいる時間がすごく長くなったので、暇な時間が増えたことによって、飲酒が増えたりとか、お昼前から飲むとかそういう事が増えて大きい声を出してみたりちょっと威圧的な態度をとってみたり、そういうことが多くなりました。」

ナレ「夫は外では愛想がよく、周囲からの評判も良かったという。」

避難してきた40代女性「私のママ友からもみんなにすごくいいお父さんだといつもニコニコしててすごく良い、と言われていたんですけども、いざ家庭に入ると結局はけ口がなくてそのしわ寄せが全部渡しに来る、子供ではなくて全部私だった。」

ナレ「DVをやめさせるため夫の両親にも相談したが夫婦間の問題ということで済まされ、解決には至らなかった、数日分の衣類をかばんに詰め、夜逃げ同然で家を後にした、それは苦渋の決断だった。」

避難してきた40代女性「一人で出ていこうかって考えたこともあったんですけども、友達とかに話した時に『それはちょっとダメだよ』と。結局自分が生んだし責任もあるのでこういう事になったら子供もしっかり連れて行こう。」

ナレ「家を出ることは事前に子どもたちには伝えていた。当日は何も言わず、黙ってついてきてくれたという。」

避難してきた40代女性「お友達に会いたい、と何回か泣かれました。家においてきてしまったおもちゃだったりお洋服だったり自分の好きだったものを持ってこれなかったということで本当に申し訳ないなって思ってます。」

"ナレ「度重なる暴力に耐え続けてきた女性。恐怖心は未だに拭えない。」

避難してきた40代女性「夫から昔言われたこととかされたこととか、そういうことを夜中思い出して、そこから1時間2時間眠れないっていうこともあって、もしかして近くに来ているんじゃないか、とか、すごく不安で。」

ナレ「こうした女性たちのために施設では日常的にカウンセリングを行っている。」

職員「戻らないで新しい生活、自分たちらしい生活がね、必ずできるから。」

避難してきた40代女性「私、悪い子としてきたわけじゃないのに、悪いことしたのかなっていうふうになっちゃう。」

職員「子供を守るために縁もゆかりもないところまで来たんだもん、ねえ頑張ったよね。そうそう」

職員「後悔するんですよ、みんないっしょに出てきてよかったのかな、子どもたちから父親を奪っちゃたのかなって、そこはそうじゃないよと伝えて、そこはあなたの選択は間違えてなかった、ただしかった、子どもたちにとってとても良いことをしたと伝えていきながら抱えているものを少しずつおろしていっていき作業を日々しているのかなと思います。」

"ナレ「コロナの感染拡大以降、施設には入所を求める問い合わせが増えている、その理由について、施設長はこう話す。」

友田直人(母子生活支援施設施設長)「ご主人が在宅で遠隔で仕事をしているという、あの、子供が脇で騒いでいると仕事にならない脇ですよ、そうするとそのストレスのやり場が子どもたち、あるいは奥さんに向けてしまう、ということでやはりコロナ禍社会で家族に対する暴力の傾向が随分強まって。」

ナレ「クリスマスを間近に控え、施設のロビーにはツリーが飾られた。この日、親子はロールケーキでささやかに祝いした。現在、女性は職員の支援を受けながら離婚の準備を進めている。」

避難してきた 40 代女性「何気ないんですけども、争いが無いのでそれは安心できます。子供もね。今までが大変だったんでこれからはね、3人で仲良く暮らせるといいね。」

(CM)

"ナレ「コロナ禍の年の瀬、追い詰められた人たちが向かう場所がある。新宿歌舞伎町にある相談窓口、東京チャレンジネット。この日、相談に来ていたのは 46 歳の男性、住み込みで働いているパチンコ店が今年いっぱい閉店、年明けから仕事と住まいを同時に失うことになった。」

相談に来た 46 歳男性「日に日にお客さんは少なくなっていき、昔の常連さんとかもやっぱり来なくなるですよ、コロナ禍にあってちょっと営業を継続する落るのがちょっと難しいということなので、」

スタッフ「今の寮に住めるのはいつまでですか」

相談に来た 46 歳男性「そうですね 1 月までは一応いられる予定には、その間にちょっと住むところを探さないと感じて。」

スタッフ「今、貯金というのはどのくらい。」

相談に来た 46 歳男性「もうないです、貯金が。全くできないので 5000 円くらいしかないです、もうこれ一枚で。」

ナレ「都はこの男性のように仕事と住まいをいっぺんに失った人たちを支援する取り組みをしている。」

スタッフ「じゃあすみませんおつかれさまでした。」

ナレ「相談の結果、男性は都が用意したアパートに住めることになった。年明けからは介護の研修を受けた上で就職し、給料から家賃を支払う予定だ」

相談に来た 46 歳男性「(介護は)前から興味はあったんですよ。金銭的な面ではちょっと安いかなとは確かに言われてはいたんですけども新しい業種に手を出すのはいいかなっておもって、挑戦する感じになりました。」

"ナレ「今年、この窓口への相談件数は去年の倍以上の 1800 件に達した。」

小田智雄 (TOKYO チャレンジネット所長)「11 月の下旬から 12 月にかけて、相談の数は増えてまいりました。今までは 40 歳代 50 歳代、割合的に言うとその年代の方が多くおられました、それが今年の 4 月以降に 30 歳代 40 歳代の方に若干若い年の方にシフトしてきている傾向があります。」

ナレ「東京都は他にも年末から年始にかけて一時宿泊場所を提供、相談窓口も臨時で開くことにしている。初めて経験するコロナ禍の年末年始、手厚い支援が求められている。」

VTR を受けてスタジオで膳場キャスターが「続けて次の特集ご覧頂きます、新型コロナの影響を大きく受ける介護事業者。感染リスクを抑えながら利用者とその家族のために事業所の運営を継続できるか模索が続いています。介護現場の取り組みをご覧ください。」とコメントをし、さらに以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

"ナレ「神奈川県鎌倉市にあるデイサービス、ケアサロンさくら。9 年前から重度の認知症にも対応した介護施設として、地域に根ざしたケアを続けてきたが今年 6 月に閉所した。」

稲田秀樹 (代表取締役)「コロナが長期戦になった時、経営していけないという状況になって。」



ナレ「これは4年前の取材映像、商店街の空き店舗を利用した室内で、利用者と職員がテーブルを囲んでいた。だが、感染症が拡大する中、認知症の利用者にはマスクの徹底が難しくなった。このため定員8人を午前と午後  
の時間に分けて半数にしたが、介護報酬は半減、経営難に陥った。」

稲田秀樹「認知症の重い人たちで休むことはできない、短時間になって減収してしまった分をまっ補填されるよ  
うな制度はなかった。今もないけどね。」

ナレ「倒産する介護事業者も急増している。特に打撃を受けているのがデイサービスなどの通所型施設だ。慣れ  
親しんだ施設の閉鎖、通っていた家族は、伊藤法子さん89歳、認知症のリハビリのため、ケアサロンさくらに  
通っていた」

伊藤法子さん「これ私だ、これ、誰？」

伊藤幸子さん（伊藤法子さんの娘）「商店街にあったさくらって、本当にお店のよう外から丸見えなんだけど、  
外から手を降って入ってらっしゃって、自分の家のようにしていた。」

伊藤法子さん「もうわかんない、忘れちゃったね、忘れちゃったけど、楽しそうだよね。」

ナレ「一人娘の幸子さんは自宅にいるだけでは母法子さんの認知症が進行してしまうと心配した。幸い別の施設  
で空きが見つかったが、感染が拡大する状況で預け先が亡くなる不安が常にあるという。」

伊藤幸子さん「本当にもしコロナ禍で施設とかどこにも行けなかったら、もうあつという間に進んでしまってい  
たんじゃないかな、っていうふうには思います、家族以外に触れ合うところがっていうのはすごく大事な場所だ  
と思っています。」

ナレ「さくらの隣りにある軽度の認知症向けのデイサービス、こちらの利用者はマスクの必要性を理解すること  
ができたため、営業を続けている。施設がある地域は鎌倉市の中でももっとも高齢化率が高い、稲田代表は地域  
にとってはなくてはならない施設でやめるわけにあ惹かない、と話す。」

"稲田秀樹（代表取締役）「なくせない理由はね、地域の人達から認知症の人のケアをなくしたら絶対困るとい  
うことは言われているわけですよ、ともに生活するノウハウを私たちは持っているんで、それがなくなったら、  
財産がね、で、地域の人達もそれは共有してきた財産見た慰安者なので。」

ナレ「稲田代表はある決意をする。」

(CM)

"ナレ「コロナ禍で閉鎖となった重度の認知症に対応したデイサービス、近くで売りに出された民科を回収し、広  
いスペースを確保することで再開を目指すという、」

稲田秀樹「まだ工事ね、解体してまだあんまり進んでいないんだけど、改修工事の一番のポイントはやはりあの、  
新型コロナの感染対策をしっかりほどこ明日、と。」

ナレ「換気扇や手洗い場の増設などで改修費は1200万円を超えるという、資金集めのため補助金の申請やクラ  
ウドファンディングも活用した。地域住民も寄付に協力し、70万円近くが集まった、さらにこんなものも。」

稲田秀樹「これはみんな地域から頂いたもの、大いに予算の問題です。これは、手すりまでもらっていったから  
ね、何でももらって行ってこれって、この手摺をもらっていいですかって聞いたら、どうぞ、って、職員にドラ  
イバーで外してもらって。」

ナレ「住民たちも再開を待ち望んでいある。」

長谷川かち子「住民のね、話なんかを聞いていると、やっぱり近くにあると助かる。」

増田節子「そうですね、ちょっとこう覗くことも出来るし、近所の人もあそこにいるなと思うと手を降ったりす  
ると手を返してくれたり、なんか安心ですよ、近くって」

"ナレ「オープンは来年3月だ。」

稲田秀樹「私のところも体力あるわけではないからね、みんなのこう応援でなんとかなっているんですけども、もうギリギリですよ、もう、もはや、もはやギリギリなので、余計な事態にならないことを願うばかり。」

"ナレ「そしてコロナ禍で介護施設が直面しているのが面会の禁止だ。およそ 130 人が入所している高齢者施設、『夢の郷』感染者対策として毎日二回以上の検温や体調確認、手が触れる場所の消毒も頻繁に行っている、利用者は外出やレクリエーションもできず、面会もリモートだけしかできない状況が続いていた。しかし、クリスマスが近づいた今週、10 ヶ月ぶりに対面での面会を再開することを決めた。」

天笠寛（『夢の郷』理事長）「施設を守ることだけのことを考えればリモートだけでという決断になると思うんですけども、それだけではない、ご家族の気持ち、利用者の気持ち、信念持って、喜んでもらおうという気持ちは変わらないので今回はやらしてもらいます、」

ナレ「入居者フロアと廊下の間にアクリルアバンを設置する感染防止策をとった。さらに」

林英一（施設長）「やっぱりここでもね、検温したほうがいいよ、下と上で温度が違うから見逃す可能性もあるから。」

ナレ「利用者と家族との間に距離を設けるなど外からウィルスを持ち込まない対策を徹底した。」

林英一「万が一感染してしまうとこのお部屋のいる入居者全てが接触車になってしまう、そのリスクの中でやろうとしているので非常に恐怖心はありますね。」

ナレ「面会禁止が続くこの 10 ヶ月間、利用者家族の不安も限界に達していた、82 歳の母を夢の郷にあずけている千代子さん、母、早苗さんは去年 9 月に脳梗塞に倒れ、今年 2 月から施設に入所した。」

千代子さん（母が特養に入所する）「脳梗塞の後遺症で失語症というのになってしまって、なにか言っているんですけども、音としてでてこないというか。」

"ナレ「また、左半身が麻痺しているため車椅子での生活となってしまった。」

千代子さん「もしかしたら会えないまま命を落とすかもしれないという、そういう状況感もあるかもしれないので、不安で、もうごめんね、行きたいけどいけない、とこの気持ちちゃんとお母さん通じているかなという、もどかしさとかなんかにさう言うので、なんか苦しくなったことはあります。」

ナレ「会えない日々が続く中、千代子さんは文字がうまく書けなくなった母のために、こんなものの、」

交換ノート「お母さんの字のリハビリのために私との交換ノートを作りました、次の面会のときなどに渡してもらえるようにお母さんも書いてみてね。」

千代子さん「早く会えるように頑張ろうっていうふうに励ましたつもりなんですけど、手紙を読んで泣いていた、って涙を流していたって、ああ通じたんだ、読めたんだ、って思って嬉しくて。」

ナレ「母、早苗さんは毎日コツコツと娘への返事を書いていたという、手紙には。」

手紙「こんにちは、いつもお便りありがとうございます。塗り絵をする、テレビを見る、」

ナレ「コロナ、という文字もあって、ノートの隅から隅までびっしりと書かれた返事の中から千代子さんは何度も読める文字を探した。」

千代子さん「この細かいのを書くのもすごい大変だったんだと思います。右側しか使えないので、こんな感じで練習してくれて、チャレンジする気持ちはいっぱいあるので。」

ナレ「失語症の母とうまくコミュニケーションが取れないリモート面会が続く中、ついに母と会えることに。今週火曜日。」

千代子さん「わかる、長かったね、やっと目の前で会えるね。これが誰かわかる、マスク取れないけど、誰だ？」

早苗さん「ちいちゃん、ちいちゃん。」

千代子さん「ちいちゃん、よかったよ。今ここ誰が推してきてくれた、ヘルパーさん誰が押してきてくれた？」

早苗さん「あいちゃん。」

千代子さん「あいちゃん、愛ちゃんが押してきてくれたの、うん。良かったね。」

ナレ「話すことが難しかった早苗さんが娘の問いかけに答える。千代子さんが母にクリスマスプレゼントを用意していた。」

千代子さん「『お母さんへ、コロナで大変な年だったけれど、いつも笑顔を忘れずに頑張ってくれてありがとう、ババの笑顔とピースサインは家族に生きる素晴らしさを伝えてくれるよ』っていうことを書いています。」

ナレ「毛糸の帽子とショールのプレゼントも、千代子さんとおそろいのものだ。話題は早苗さんが書いた手紙の話に。」

千代子さん「お話できないけれど賭けるでしょ、何行に一行かは読めるからね、それ、頑張ってるね、なんか暗号になってるから。読んでわからないけれど、また何時間語ってまた読んで、あつてまた気付くこともあるから、ありがとね、大変だと思うの、これ、ババ、大変な一年だと思うけれど笑顔を忘れないで、ありがとね、頑張ろうね。また元気で会おうね、またね。ババ、ピース、しゃべれないけれどこれ合図だからね、またくるからね、よろしくおねがいします、バイバイ。」

ナレ「10ヶ月ぶりの再開は15分間という短い時間だった。」

千代子さん「会えましたよかったです、もう気付いてくれてよかった、すごい嬉しいです、やっぱり、実際に会えて、もう簡単には収束はしないと思いますけれども、この大変な中でも希望を持つ事を忘れずに諦めないという勇気を持って生きていきたいと思います。」

特集のVTRを受けて、スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

膳場貴子「高齢の親がいるので身につまされる思いなんですけれどね、このコロナ禍でどうしても助けが必要になる局面、で、誰かを支えることになった局面、皆さんにもそれぞれあると思います、そうした際に肚を括って様々なリスクを負ってでも、現場で力になってくれるのはともに支え合う、共助、互助、そして自助だったんだな、と取材を通じて痛感させられました。希望を言えば、公的な支え、公助が必要な場所にしっかりと届いて、そしてその安心考えられるといいなと思うんですけれども、安心感が欲しいなと思うんですけれども、ちょっとそこには程遠かった印象を持ちましたね。」

日下部正樹「コロナ禍にあつて、この一年で最も心に響いた言葉があります、今写っていますけれども、武漢在住の方方（ファンファン）さんがこの『武漢日記』に綴った言葉なんですね、ファンファンさんは文明を測る基準についてどれだけ高いビルがたっているか、強い軍隊、科学技術ではないんだとした上で、こう言っています。

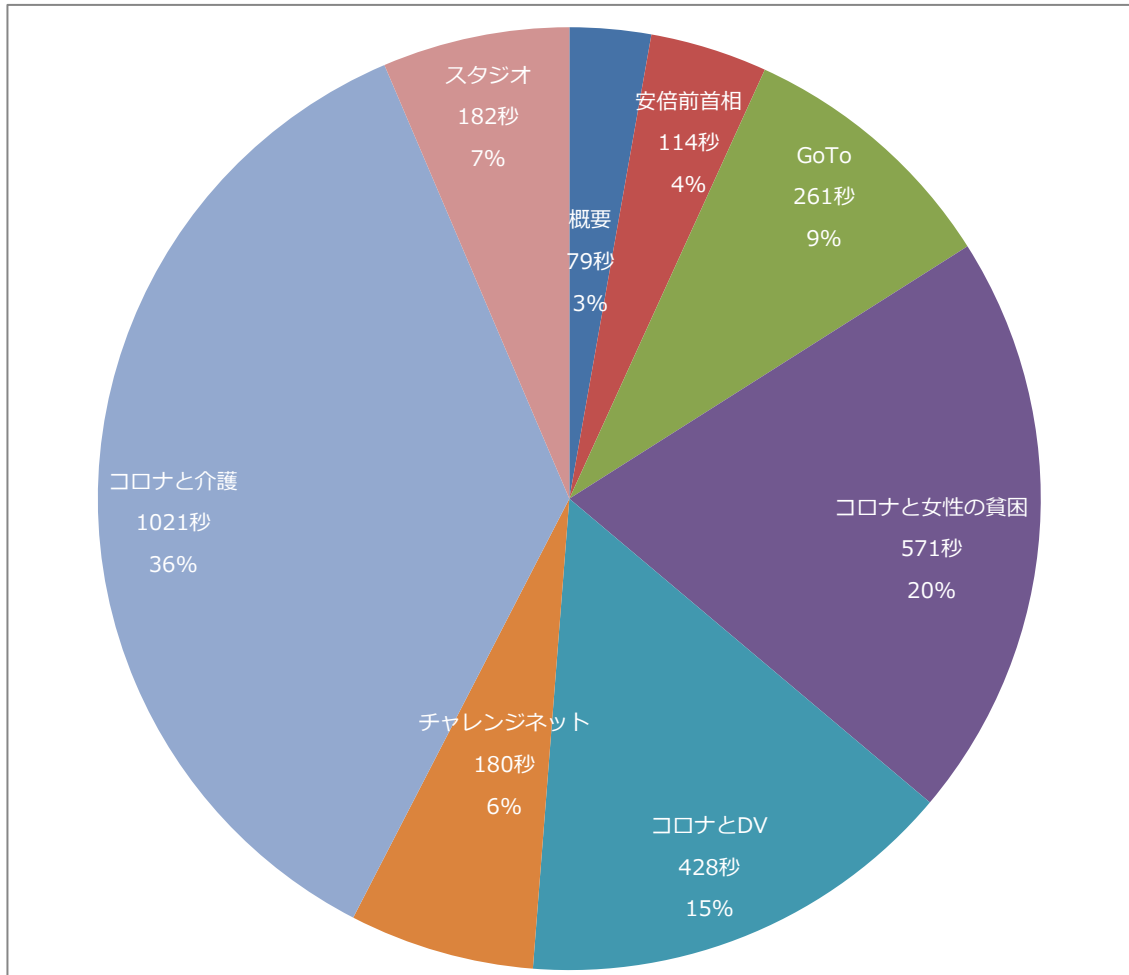
『ある国の文明度を測る唯一の基準は弱者に対して国がどういう態度を取るかだ』まあこの言葉を頭にVTRを見ていると本当に暗澹たる気持ちになりました。ファンファンさんはですね、鋭い当局批判をしていて圧力を受けているわけですが一昨日メールが私のところに来ました。この中では『今は各国がイデオロギーや文化的な違いを脇において、有効な感染症対策や経験を共有してできるだけ早く全世界を不穏にする感染症を収束すべきだと思います』こう書かれていました。」

金平茂紀「あのね、危機が本質をあぶり出すっていうふうに言われていますね、コロナのパンデミックの中で人々が一体何が本当に大事で何が嘘っぱちなのかという事について気付き始めている気がしますね。本来はそのことに最も敏感でならなければならない政治ですね、この政治の混迷ぶりっていうのを私たちは一年この日本で見えてきたんですけれども、今週のね、安倍前総理の立ち振舞を取材してですね、あの何ていうんですかね、絶望しました。彼らにはおそらく民っていうのが見えていないんじゃないか、なんか別の世界に住んでいる、っていう、国会で118回も嘘をついて秘書がやった、自分は知らなかったと言い切る態度を見ていると、私はあの議員辞職に値するというふうに思いますね。あの、アベノマスクを始めとする後世に語り継がれるような愚策をです

ね、数々見ているとですね、コロナ対策っていうのはすぐには収束しないっていうまあ肚を括って有権者はきちんと救いを求める声というのをですね、挙げなければならない、私たちメディアもですね、そういう民の声をしっかりと伝えるというようなことが必要だという思いを新たにしました。」

特集に当てられた時間は 2836 秒だった。

なお、それぞれの焦点の時間配分及び比率は以下の通りであった。



この特集では些か不自然な形で安倍前首相の記者会見が取り上げられていたことを除けば、基本的にはコロナに苦しむ人々を広範に取り上げていた特集となっていた。

コロナ禍での DV については在宅勤務が浸透したことにより DV が増加したということについては背景まで伝えられていたが、コロナでの経済苦についてはその背景については NPO 法人「POSSE」の渡辺寛人事務局長の「サービス業への影響が大きいのかなとは思いますがね、で働いている人たちの仕事がやっぱり戻れない、そもそもコロナがあるなしに対して会社に対してすごい立場が弱い、なにか言ったらペナルティがあるんじゃないか、クビにされるんじゃないかっていう環境があって、持っているはずの権利を主張できない不利益な状況に追い込まれている、っていうのがあるのかな。まあ非常にいい加減な手続で労働者をやめさせる、コロナに便乗していくような形で労働条件を切り下げたり、クビにしていくっていう事例もかなりやっぱり相談としては多いんですね。」というコメントを紹介するのみであった。確かにコロナの有無に関わらず会社に対して立場の弱い人にしわ寄せが来ているという点は否めないが、そもそも会社側としても仕事自体ができない状況に追い込まれていたり、あるいは営業拠点や会社自体を畳んでいたりする、ということもあるし、時短要請を受けて夜間営業を取り止めることで夜間の従業員のシフトがなくなるということもある。

今回の特集で取り上げられていた失業者は昼は工務店の事務の非正規従業員で夜は居酒屋の非正規従業員と掛け持ちをしていたシングルマザーの女性や住み込みで働いていたパチンコ店の閉店により職と住まいを失った男性が取り上げられていたが、夜の居酒屋であるとかパチンコ店というのはコロナの感染源だとして、政治やメディアから槍玉に挙げられ、自粛要請や時短要請をされた業界業種である。

仮に自粛要請や時短要請あるいはそもそもこうした居酒屋やパチンコ店を狙い撃ちにするような報道だとか政治からの発信というのがされていなければ、ここまで経営不振に陥ることはなかっただろう。

「コロナ感染を防げ」であるとか「医療崩壊を防げ」という掛け声はそれ単体としては間違っただけのものではないが、そうした掛け声がされることによってその裏側で、仕事そのものが減って閉店・倒産する企業が出てきたり、失業が出てきたり、ということが起きてきたとも言える。

今回の特集で取り上げられた失業者などは、そうしたメディアや政治の声によって職場そのものあるいは勤務時間そのものを奪われての失業であり、「外出自粛」だとか「営業自粛」を呼びかけてきた政治やメディアあるいは医師会などの医療関係者団体にもそうした失業者を生み出した責任の一端はあるわけだが、こうした者を「コロナ禍の失業」とひとくくりにして、まるでメディアや医療関係者団体は責任がないかのように取り上げるという姿勢は放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」や同四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」に照らして問題であると言える。

・コロナの速報：結論→特に問題なし

膳場キャスターによって「新型コロナウイルスについて JNN のまとめでは今日これまでに全国で 3805 人の感染が確認されています。」とのコメントを受けて VTR とともにナレーションによって「東京都では今日新たに過去最多となる 949 人の感染が確認されました。宮城栃木京都でも過去最多で、神奈川は過去二番目、千葉は過去三番目と全国で感染が拡大しています。厚生労働省によりますと全国の重症者の数は前日から 10 人増え 654 人になりこちらも過去最多を更新しました。また、感染力の高い新型コロナの変異種の感染者が空港検疫以外で初めて確認されました。関係者によりますと東京都内に住むイギリスに渡航歴のある 30 代の男性とその家族の二人で、国立感染症研究所での遺伝子解析で判明したということです。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 58 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターは「今年最後の放送です。数ある嘘の中でももっとも卑怯な嘘は他人に罪をなすりつけるためにつく嘘だと私は思います、コロナ禍で苦しむ世界の中で嘘をつかないというルールがいかに大切なことか、私たちは思い知っています、今日は総力特集でコロナに苦しむ人々の姿をお伝えします。」と語っていたので、てっきり中華人民共和国の初動対応についてどこかで批判するのか、と思ったら、特段そういうことはなかった。

・【特集】 コロナの影響：

日下部キャスターがスタジオで『武漢日記』の著者ファンファンさんの言葉を「文明を測る基準についてどれだけ高いビルがたっているか、強い軍隊、科学技術ではないんだとした上で、こう言っています。『ある国の文



明度を測る唯一の基準は弱者に対して国がどういう態度を取るかだ』と紹介していたが、まったくそのとおりであるように感じた。それは日本国の財政を見ても明らかである。

歳出の大半が社会保障関係費であり、将来に渡って便益を享受できるようなものではないにも関わらず、歳入のおよそ半分は公債に依存しており、また累積債務も年々積み上がっていつている。これは代議制デモクラシーにおける「物言えぬ弱者」である将来世代に対して一方的に負担を先送りにする行為にほかならず、これがコロナ関係なく常態化しており、そしてコロナ禍の中でさらに、コロナ対策だとか景気対策と銘打って国債の増発と歳出拡大が行われている。代議制デモクラシーのもとでは実際に今生きている弱者は弱者ではあるが物を言うことは出来るし、弱者が大きな塊となることでその声を大きくすることも出来る。しかし、将来世代は物を言うこともできなければ、塊となることもできない、そういう意味で生きている弱者以上に財政上は弱い立場に置かれている。

そうした「真の弱者」に対して、これまで一方的に負担を先送りにしてきたような日本であるから、その文明度というのは推して知るべしということであろう。

また、金平キャスターが「危機が本質をあぶり出すっていうふうに言われていますね、コロナのパンデミックの中で人々が一体何が本当に大事で何が嘘っぱちなのかという事について気付き始めている気がしますね。本来はそのことに最も敏感でなければならぬ政治ですね、この政治の混迷ぶりっていうのを私たちは一年この日本で見えてきたんですけども、今週のね、安倍前総理の立ち振舞を取材してきてですね、あの何ていうんですかね、絶望しました。彼らにはおそらく民っていうのが見えていないんじゃないか、なんか別の世界に住んでいる、っていう、国会で118回も嘘をついて秘書がやった、自分は知らなかったと言い切る態度を見ていると、私はあの議員辞職に値するというふうには思いますね。あの、アベノマスクを始めとする後世に語り継がれるような愚策をですね、数々見ているとですね、コロナ対策っていうのはすぐには収束しないっていうまあ肚を括って有権者はきちんと救いを求める声というのをですね、挙げなければならぬ、私たちメディアもですね、そういう民の声をしっかりと伝えるというようなことが必要だという思いを新たにしました。」ともコメントしていたが、これについても「危機が本質をあぶり出すっていうふうに言われていますね、コロナのパンデミックの中で人々が一体何が本当に大事で何が嘘っぱちなのかという事について気付き始めている気がします」という部分についてはそのとおりであるように思える。

今回のコロナ対応で、日本は更に国債を増発し、また「高齢者や基礎疾患を持つ重症者を守る」だとか「医療崩壊を防ぐ」というお題目のもとに、実際の医療制度を財政面から支えてきていた納税者や保険料納入者つまり現役世代の生活に多大なる犠牲を強いるばかりか、その一部を納税者から失業者や生活保護受給者へと転落させている。「今生きている人を守る」といえば聞こえはいいが、そのために「将来の芽を根こそぎ摘み取っている」ともいえるわけで、これも前述の負担の先送りという体質・本質が露呈していると言えるだろう。また「コロナのパンデミックの中で人々が一体何が本当に大事で何が嘘っぱちなのかという事について気付き始めている」ということについても、そもそもコロナについてよく分からなかった第一波のときに比べて、そのリスクは年代や基礎体力によってばらつきがあること、ということが明らかになるとともに、国民の意識にもばらつきが出てきている、というのは「人々が一体何が本当に大事で何が嘘っぱちなのかという事について気付き始めている」ということの証左であると思う。

他方で、政治の混迷ということについては、いやしくもデモクラシーを標榜する国において、またデモクラシーを信じる以上はそれを政治家や官僚のみのせいにはならないだろう。政治家が立脚する民意の要求が混迷している以上は、当然それを組み上げる政治家の対応も混迷をしてくるのは当然のことである。

「彼らにはおそらく民っていうのが見えていないんじゃないか、なんか別の世界に住んでいる」ということに

については、そもそも「民」の住む世界も多様であり、民同士が別世界に住んでいるということも往々にしてあるのだから、「彼ら」が「別の世界に住んでいる」ということについては分からなくもない。事実、時短要請だとか営業自粛要請に苦しむ飲食業者などがある一方で、メディア業界ではあいも変わらず繁華街に繰り出しての取材だとか、感染クラスタの発生している病院に密着しての取材だとかを行い、コロナ前と変わらぬビジネスを営んでいる。そうしたのを見ると確かに「民」の間でも大きな分断があるのだろうという気はしてしまう。それでも「彼ら」つまり「政治家」は定期的に選挙という民意の洗礼にさらされるわけであり、少なくとも民意とは無関係に総務省から頂いた免許のもとで寡占的にビジネスを営むテレビメディア業界の人々よりもよほど民意による信任は得ているはずであり、それを「民っていうのが見えていないんじゃないか」と言うのには違和感を覚えたと同時に、「アベノマスクを始めとする後世に語り継がれるような愚策をですね、数々見ているとですね、コロナ対策っていうのはすぐには収束しないっていうまあ肚を括って有権者はきちんと救いを求める声というのをですね、挙げなければならない、私たちメディアもですね、そういう民の声をしっかりと伝えるというようなことが必要だという思いを新たにしました。」というコメントについては、「民の声」が政治家ではなく自分たちの側にあるというこの確信は一体どこから来ているのか、ということが非常に疑問に思えた。

とは言え、金平キャスターがせっかく「アベノマスクを始めとする後世に語り継がれるような愚策をですね、数々見ているとですね、コロナ対策っていうのはすぐには収束しないっていうまあ肚を括って有権者はきちんと救いを求める声というのをですね、挙げなければならない」と有権者が声を上げることを求めているわけだから、検証者である私も一有権者として「愚策が出来るような財源や権限を政府に与えるな」、「コロナがすぐに収束しない以上、医療資源の配分方法を見直せ」、「これ以上、将来世代に理不尽にコロナ対応の負担を先送りにする国債の増発早めてくれ」ということを強く訴え、所感の結びにしたいと思う。